

「雲仙普賢岳溶岩ドーム崩落に関する 危険度評価検討委員会」結果報告

● 溶岩ドームが崩壊した場合の影響範囲を試算

・溶岩ドームの崩壊規模を推定し、崩壊した場合の影響範囲について現時点で得られている知見を基にコンピュータシミュレーションを実施しました。今後、新しい知見が得られた時点で随時、確度を上げていくことが重要です。

● 溶岩ドームの挙動について継続的な調査・観測が必要

・溶岩ドームが大規模に崩壊すると、その影響が広範囲に広がることが予想されるため、調査・観測体制を構築し、溶岩ドームの全体の動きを継続的に調査・観測する必要があります。また、警戒避難に資するなど、必要に応じて、それらのデータを関係機関が共有することも検討する必要があります。

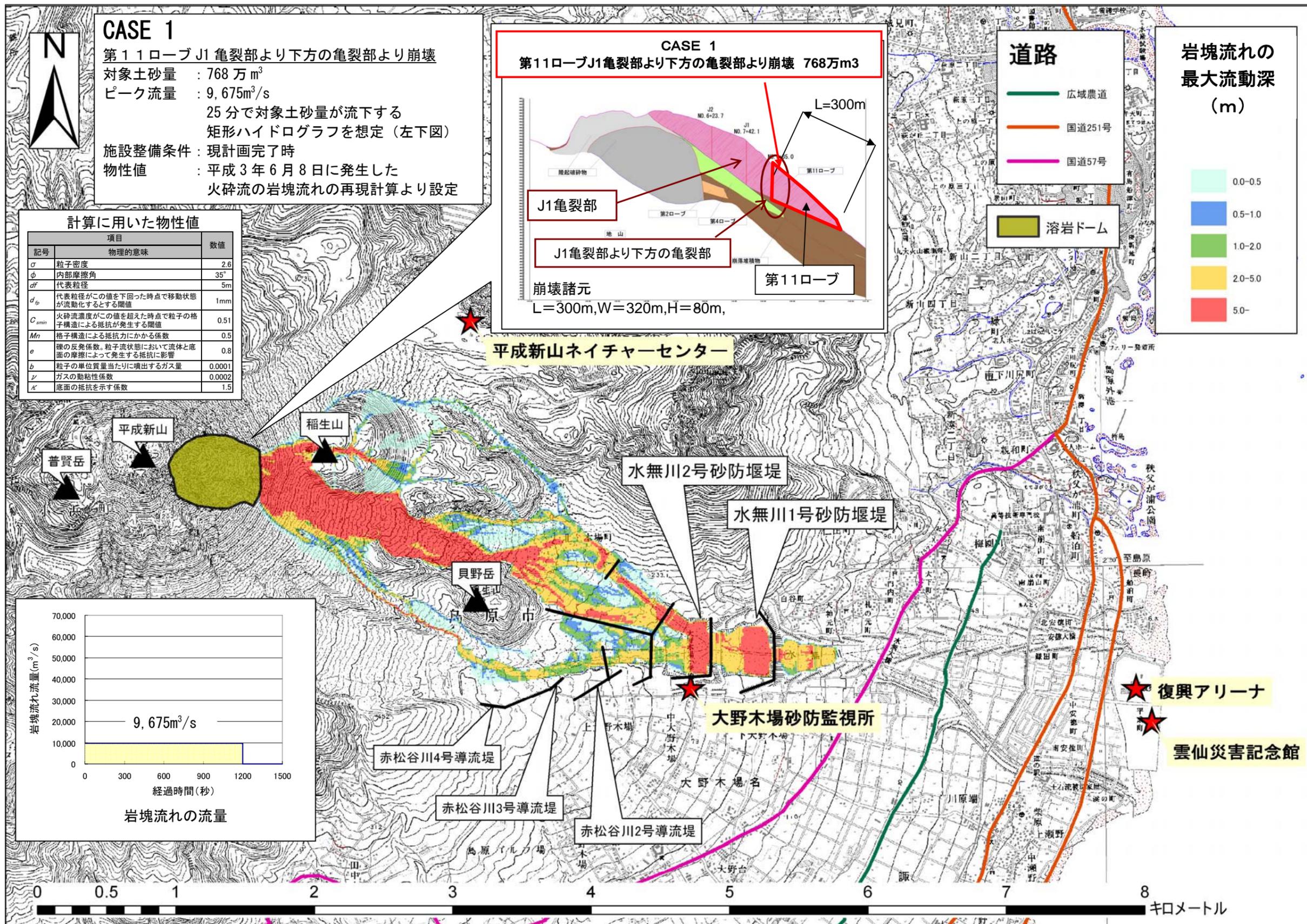
● 関係機関が連携して雲仙普賢岳の防災対策に取り組むべき

・関係各機関が連携し、溶岩ドームの崩落に関する減災対策について、ハード・ソフト両面にわたり検討することが必要です。

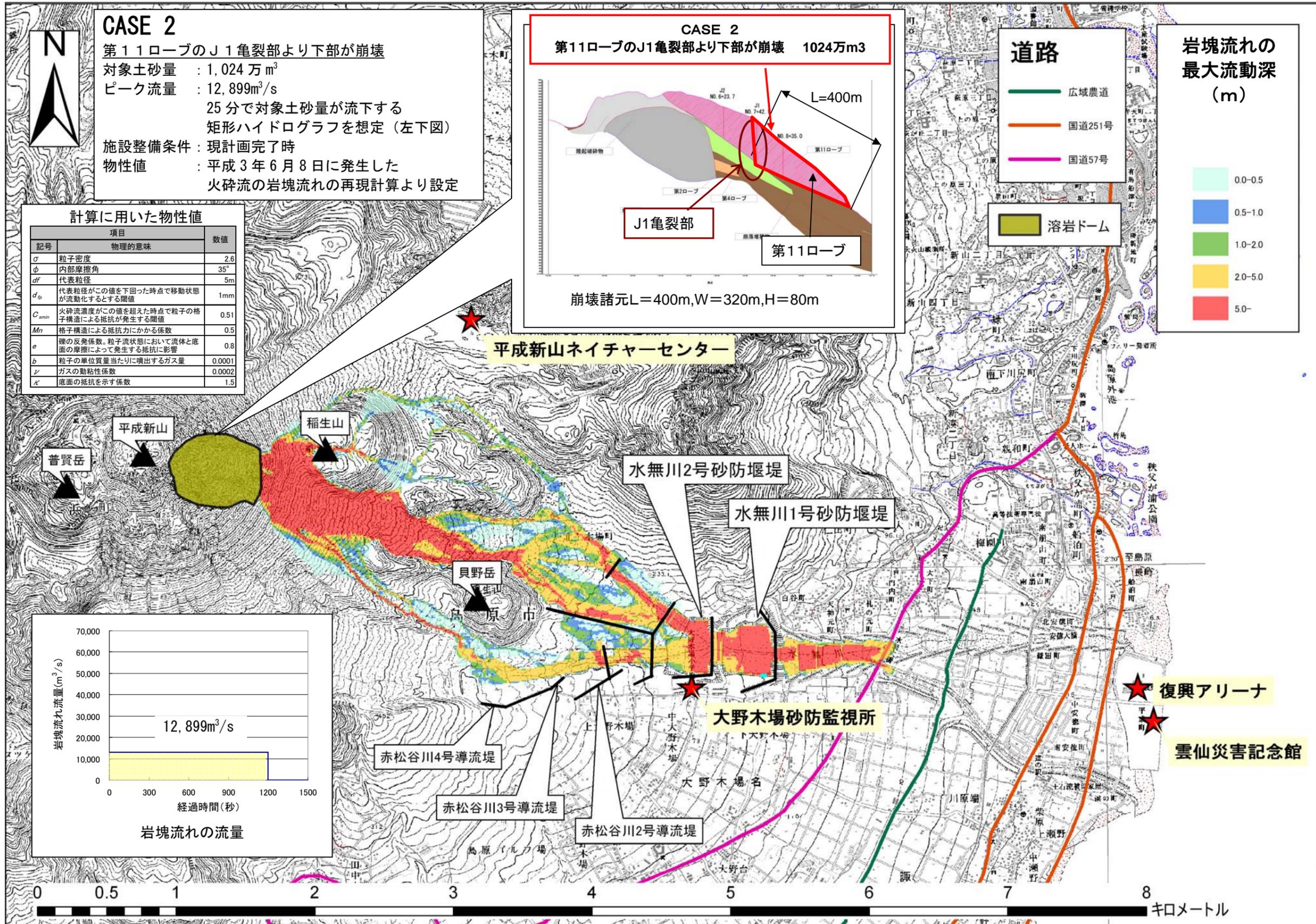
北側から見た平成溶岩ドーム全景



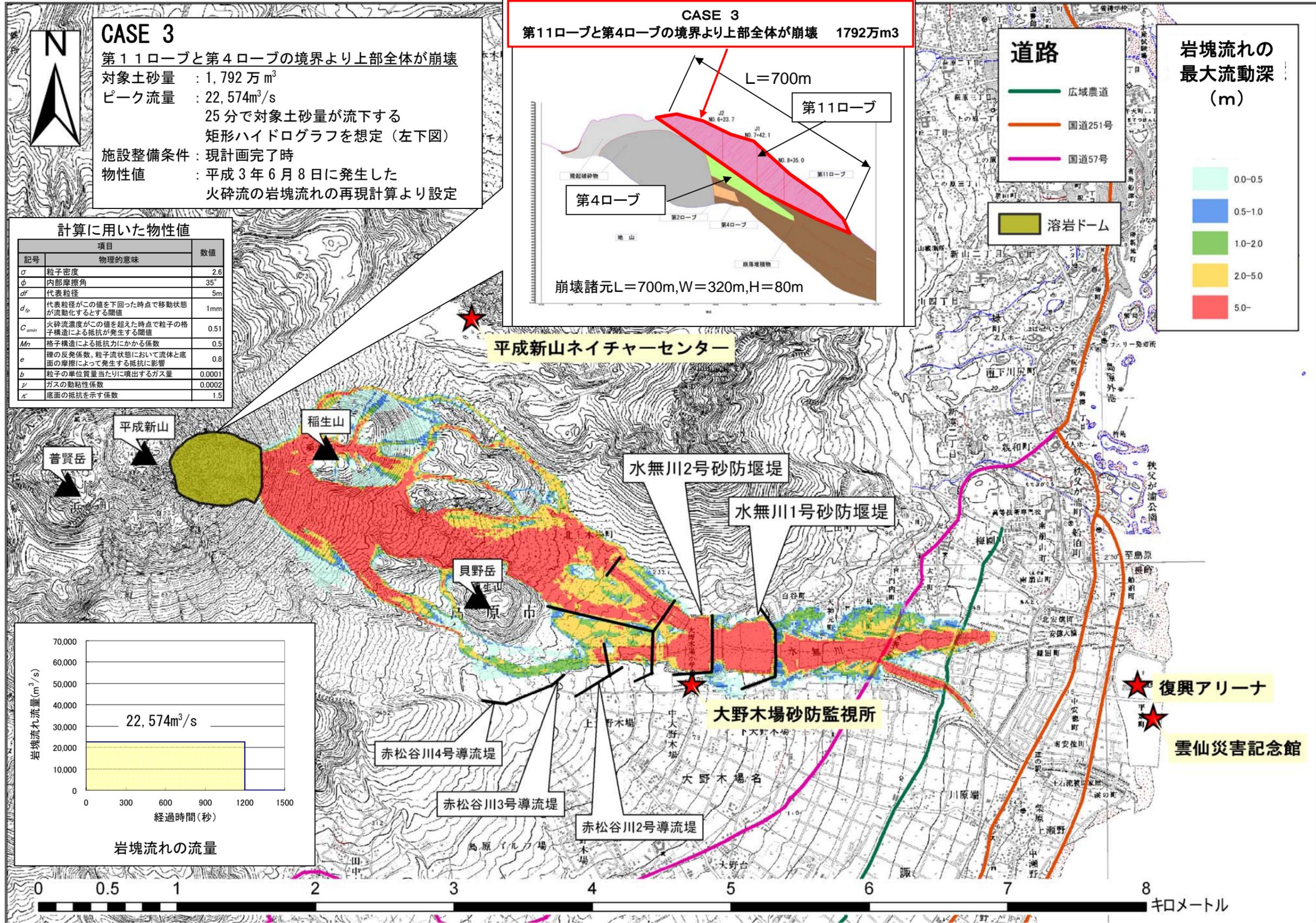
① 第11ロープ J1 亀裂部より下方の亀裂部より崩壊 768 万 m³



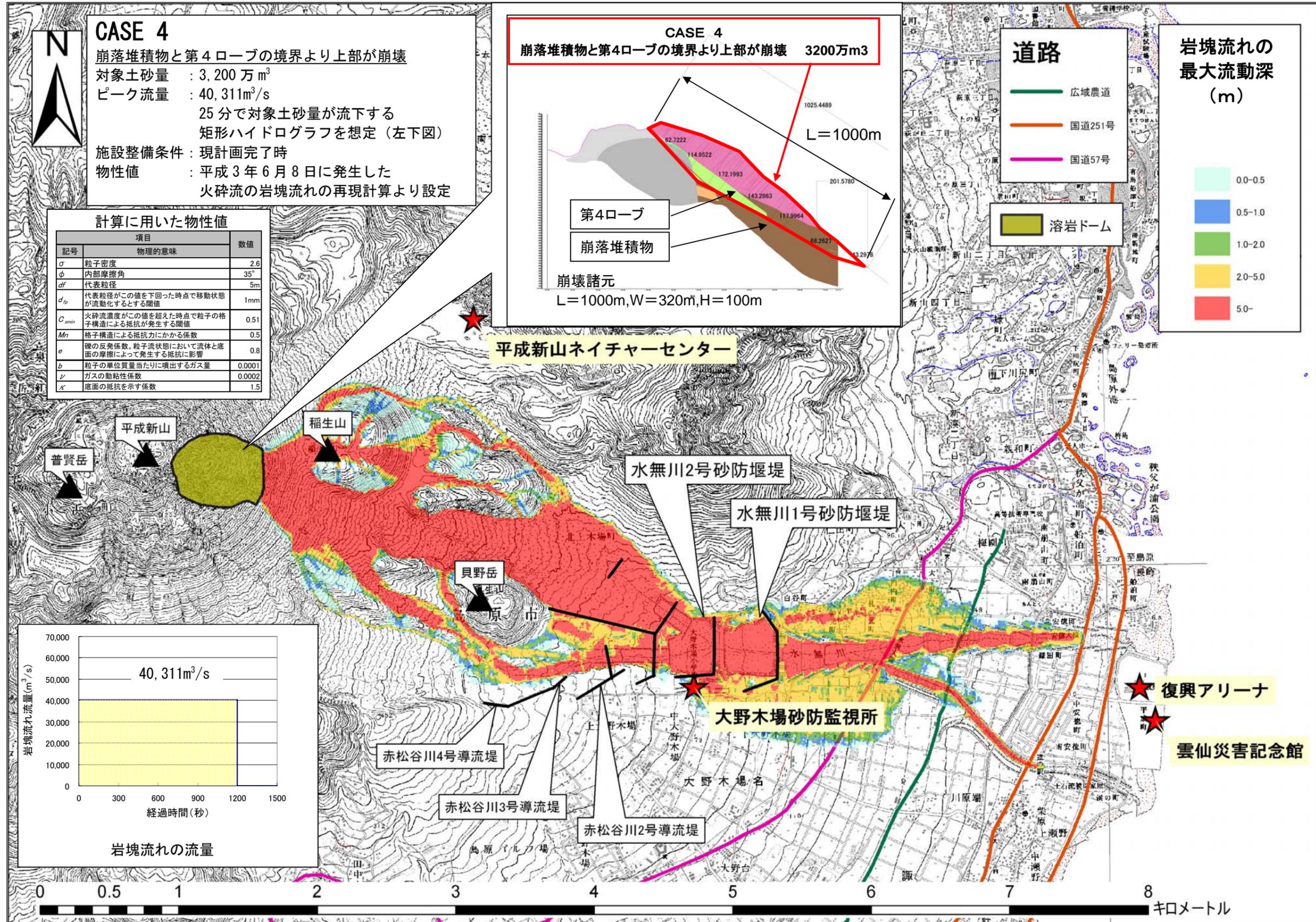
② 第11ロープのJ1亀裂部より下部が崩壊 1024万m³



③ 第11ロープと第4ロープの境界より上部全体が崩壊 1792万m³



④ 崩落堆積物と第4ロープの境界より上部が崩壊 3200万m³



⑤ 噴火前の地山の境界で崩壊 5376 万 m³

